

チャレンジデー 4年連続金メダル獲得 アルビオン社と包括連携協定へ

行政報告

◇農業関係について

今年の稲作については、春先から天候が周期的に変わったため、播種時期の違いにより、高温による葉先焼けの障害が出た場合や、低温による見られる生育障害が一部にあったものの、田植え作業は平年並みに5月21日前後をピークに進み、生育は好天により、良好となっており、今後は、適切な水管理による茎数の確保が図れるよう、山本地域振興局農業振興普及課、JA営農センターと連携しながら、稲作の情報提供に努めて参ります。

今年の米の生産数量配分は、出入作の市町村間調整の結果、仮配分時より17t少ない2,287t、作付面積では2.9ha減少して、416.8haの配分となりました。加工用米を含む作付面積は、433.9ha、出荷米については60kg換算で36,170俵となりました。

林業関係では、27年度より実施しております「木の駅事業」であり、今年度は、4月3日より木の受け入れを開始しております。出荷登録者は、昨年度の13名から16名へと増えてきておりますので、今後も事業の周知に努めて参ります。

例年、この時期の山菜、タケノコ採りの方が被害に遭う、クマによる事故が発生しており、今年度は5月27日に仙北市

6月議会定例会が6月13日から4日間にわたり開催され、上程された17案件について原案どおり可決されました。

で死亡事故が発生してしまいました。秋田県では、県内全域でクマの出没が確認されていることから、5月27日から7月15日まで、ツキノワグマ出沒警報を発令しております。町といたしまして、地域の目撃情報の収集や広報活動により、町民に警戒を呼びかけて参ります。

◇国民健康保険税の税率

国民健康保険における平成29年度当初予算については、昨年度当初予算に引き続いて、12月末から3月の年度末にかけての医療費が平年並みに落ち着いたことから、昨年度に予定していた基金からの補てんや一般会計からの法定外繰入を行わず、今年度も単年度収入で、当初予算のとおり運営が可能と思われる。

ただし、医療費は増額傾向にあることは否めず、税率を引き下げる局面にはないと思われるため、据え置きすることを、先般開催された国保運営協議会において申し合わせしております。

◇学校教育計画検討委員会各地区説明会について

藤里町学校教育計画検討委員会において答申内容がまとまられ、去る2月15日に検討委員会の板倉会長より、答申ありましたことについては、皆様ご承知のことと存じます。

4項目からなる答申の中の一つに、「住民への説明と意見収集を行い、地域との相互理解のもと、事業を進めることで、望

ましい藤里町の教育を構築していただきたい。」という答申を受けて、教育委員会として5月16日の矢野地区を皮切りに、全町7地区で説明会を開催いたしました。ご多忙にもかかわらず、全体で47名の町民の皆様に参加いただき、様々な意見や質問、そして激励等もいただきました。その一部を紹介させていただきます。

「住民が気軽に学校に行けるような地域に開かれた学校づくりを」、「英語に特化した教育の推進を」、「藤里独自の色を出せる学校に」、「まちなかに教育エリアを」、「生徒の固定化から大規模校との交流も必要である」、「学校再編は迅速にあるいは慎重に進めるべき」、などがありました。

以上のように、各地区からいただいた様々な意見や要望を参考にさせていただきながら、より具現化するための新たな組織を立ち上げ、望ましい藤里町の教育の構築に邁進して参りますので、何卒、よろしくご支援を賜りますようお願いいたします。

◇チャレンジデー2017

今年も地域住民の健康づくり、まちづくりを目的としたスポーツイベントであります「チャレンジデー2017」が、5月の最終水曜日、31日に全国一斉に開催されました。

当町も、平成26年度に初参加し、以来4回連続の参加となっております。

「一致団結して 参加率87.2%以上 金メダル」を目標に、当日は多くの町民が早朝からラジオ体操やゴミ拾いウォーキング、おもしろ運動など、それぞ

れ思い思いの趣向を凝らしながら楽しく参加していただきました。

結果として、全町で2,905人が参加し、参加率83.3%達成となりました。昨年度の当町の参加率87.2%には及ばなかったものの、対戦相手でありました島根県海士町に勝利するとともに、4年連続の金メダルを獲得することができました。

各団体をはじめ、企業のご協力と、児童生徒の頑張り、また、婦人会のきめ細かな活動などにより、町民の団結力と情熱が十二分に発揮された素晴らしい結果となりました。

対戦していただきました海士町の皆様に敬意を表するとともに、ご協力いただきました全ての町民の皆様に、改めてお礼を申し上げる次第であります。

◇お試し移住体験住宅

町の総合戦略の一つである「お試し居住・暮らしの体験民家の整備」として掲げておりました事業について、昨年度、粕毛地区にある空き家を買取り、お試し移住体験住宅として整備いたしました。

この住宅は、藤里町の魅力、暮らしを体験できる場を提供し、将来の長期滞在、移住の促進につなげることを目的としております。藤里町の魅力が感じられ、清潔感、そして施設に人を引きつける力がある物件であることなどをコンセプトとして掲げ、東京芸術大学の空間デザイン専門の先生をはじめとする専門家の方と、町内の空き家を調査、検証し、整備場所を決定し、設